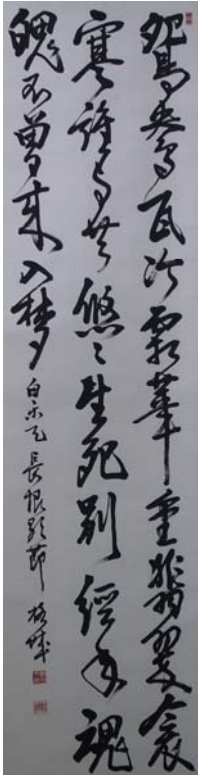
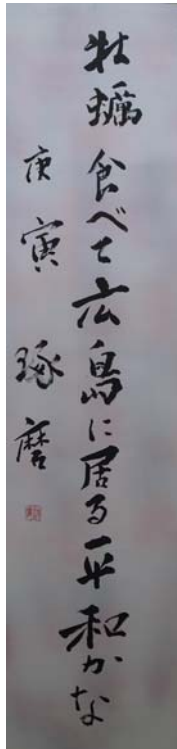


秋葉 琢磨 (千葉・産婦人科) 「自作俳句」

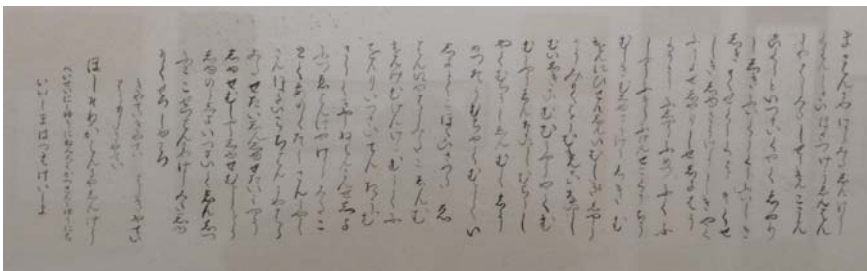


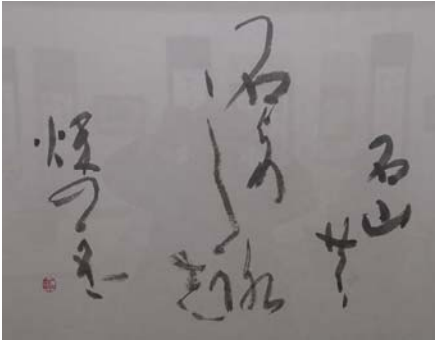
鴛鴦瓦冷霜華重 翡翠衾寒誰與共
悠悠生死別經年 魂魄不曾來入夢

落ち着いた霽囲気の東京銀座画廊・美術館で上記のように開きました。ご常連の先生が何人か体調をくずされて出品されませんでした。ご協賛者を含めて26人から39点のご出品いただきました。例年のように古典や唐詩、禪語や自詠句など多彩でした。以下、各人1点ずつご紹介します。

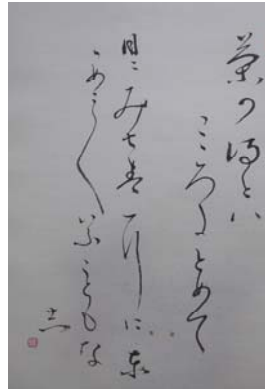
(敬称略・原則50音順)

飯島 初江 (東華) (千葉旭市)
「後桜町天皇 般若心經敬写」





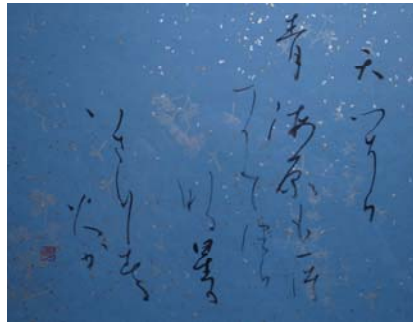
大西 正一（石山）（三重・内科）
「芭蕉句 石山の石より白し
秋の風」



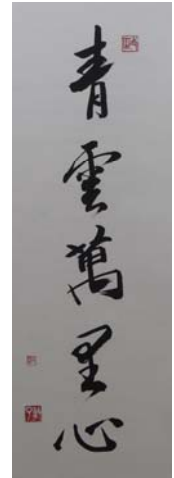
梅澤 信子（東京）
「茶の湯とは心にとめて目にみせ
ず 耳にとどめて云うことなし」

大原 政子（石川）「青雲萬里心」

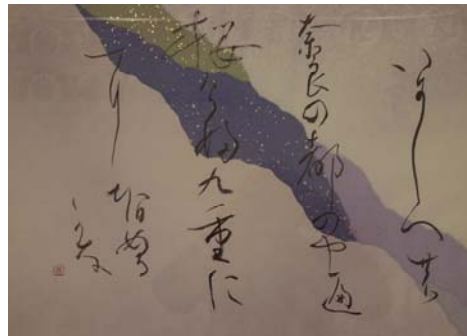
小口 英世（南石）（神奈川・内科）
「少欲知足」

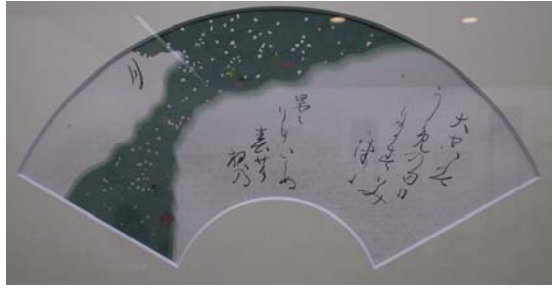


小口 明子（神奈川） 子規のうた
「天つ空青海原もひとつにて
つらなる星かいさりする火か」



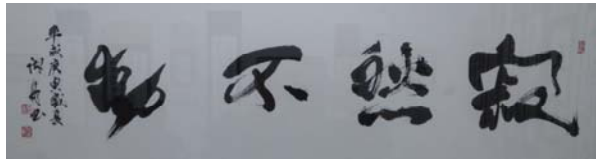
加藤 晃子（青苑）（千葉）
「百人一首
いにしへの奈良の都の
やへ桜 けふ九重に
にほひぬるかな」





中田 京子(東京)

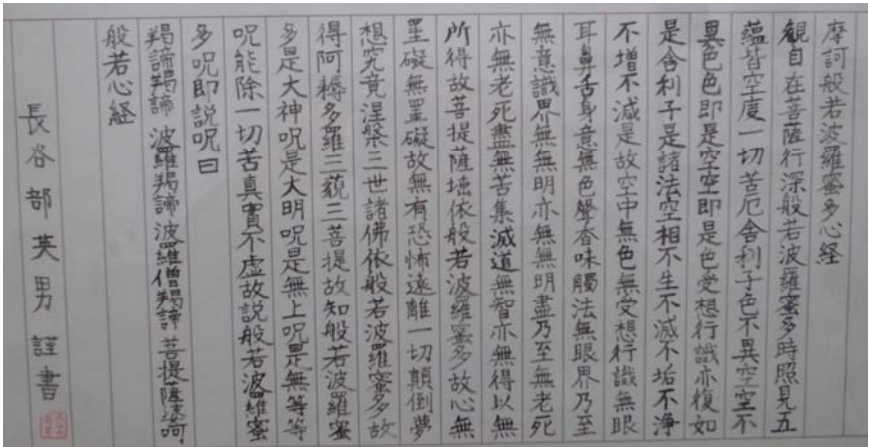
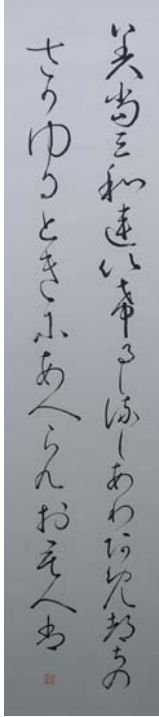
「大空は梅の匂ひにかすみつつ
くもりもはてぬ春の夜の月 (壬生忠岑)」



新関 寛二(湖舟)(神奈川・皮膚科)

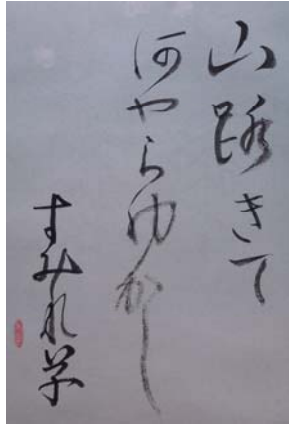
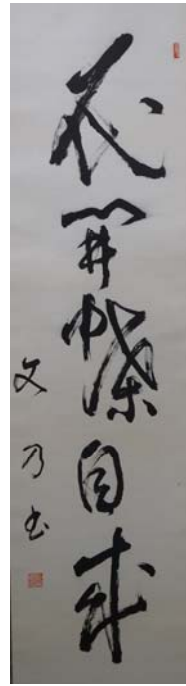
「寂然不動」

中村 純一(桐果)(神奈川 外・整形外科) 「萬葉集歌」
 みたみわれいけるしるしあり あめつちのさかゆるとき
 あえらくおもへば



長谷部英男(千葉) 「般若心経」

二宮 文乃 (綾風) (静岡) 「花開蝶自来」

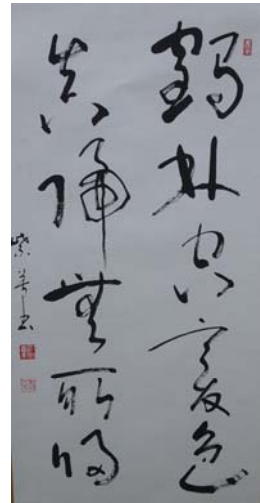


長谷部キヨ (千葉)
「山路きて何やらゆかし
すみれ草」

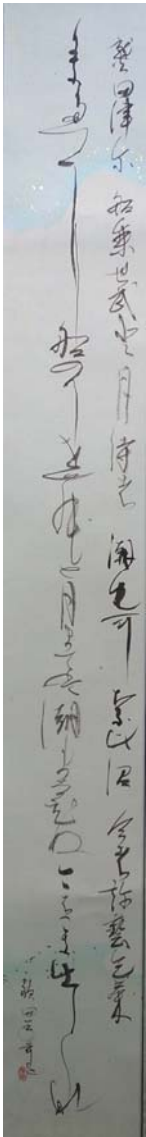
福富 清子 (東京) 俳画
「蛙子の尾を振る
一生分を振る」



原田 喜美 (紫芳) (千葉) (禅林)
「景德傳灯録 卷二十一
鶴林空変色 真帰無所帰」

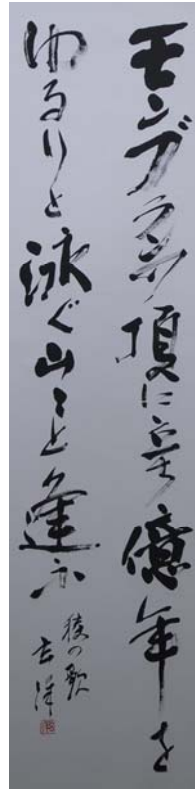


森 幸楽 (愛知) 「額田王の歌 熟田津に船乗りせむと月待てば 潮もかなひぬ今は漕き出でな



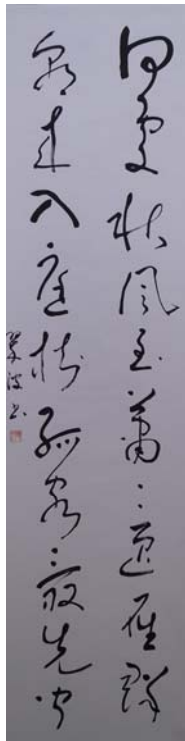
御手洗玄洋(玄洋) (愛知・生理学)

「本多稜の歌 モンブランの頂に立ち億年をゆるりと泳ぐ山々と逢ふ」



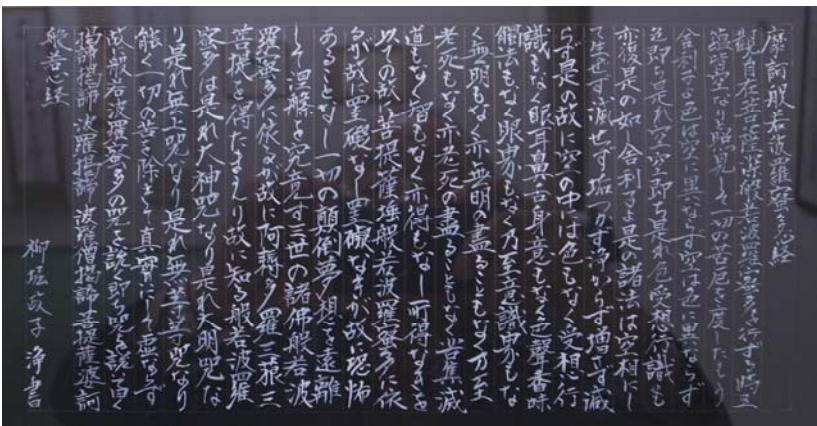
安川あい子 (翠波) (千葉)

「何處秋風至蕭々送雁郡朝来入庭樹孤客最先聞」



お願い

4月には、医学会総会で美術部や写真部とともに、作品の展示が行われます。さらに次年度以降のことなど問題山積です。部員の積極的なご協力をお願いします。(部長・小口英世)



柳堀 政子 (千葉) 「般若心經」